
月の音色

線律 春也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の音色

【Nコード】

N6580L

【作者名】

線律 春也

【あらすじ】

十五歳になる少年は、月の声を聞こえはじめる、

声と少年

??世界中でただ1人だけ15歳から19歳まで月の声を聞くことができる。

?その声はどんな音よりも美しく、澄みわたっているという。

?しかし、それを聞いた人間はそれを空耳と間違えたり、耳がおかしくなったといって、聞こえないようにしている。

?だが、その声を聞けたのなら、聞こえないフリをしない方がいい。月は独り輝いていて、とても寂しいものだから。

?ある満月の晩、とある一軒家でパーティーが開かれていた。

「誕生日おめでとう」

?テーブルの周りにいる人達は笑顔で少年を祝っている。

?少年の名前は日奈多。今日で、15歳になる。

?日奈多は皆にお礼を言つて、ろうそくの火を吹き消す。

?そして、ディナーを食べ、その後のケーキを食べて日奈多はベランダへ出る。

「退屈だな」

?日奈多は1人溢した。

?それは、ある意味で本心だった。毎年毎年誕生日でやる事は同じ、ドラマも何にもない唯のパーティー。日奈多はそれにもう飽きていた。

――何か起きてくれないかな――

?そう思った時、不意に声が聞こえた。

?いや、正式には歌といえはよかったのだろうか。どちらにせよ、その声はあらゆる音よりも美しく、澄んで、そして切なく聞こえた。――聞こえているのは貴方だけ、私の歌を聞いていて――

?日奈多は辺りを見渡した。しかし、日奈多の周りには誰もいない。

それでも、日奈多の耳にはしっかりと聞こえていた。

――いつか、貴方と歌いたい。だからしっかりと聞いていて――
満月の空の下、少年の耳に聞こえた声は、少年を大きくさせる一歩
を踏み出させる。

声と少年（後書き）

初めまして、線律 春也です。

詩や小説とかがんばって書いていききたいと思います。
よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6580/>

月の音色

2010年10月10日05時46分発行